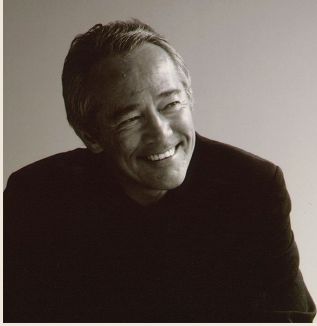


見えるカタチは見えない大切なコトをつくること



建築家／鈴木エドワードさん

Profile

1947年埼玉県生まれ。ノートルダム大学、ハーバード大学大学院アーバンデザイン建築学部卒業後、1974年バックミンスター・フラウ・アンド・サダオ、イサム・ノグチスタジオ、1975～1976年丹下健三・都市建築設計事務所を経て、1977年鈴木エドワード建築設計事務所設立。さいたま新都心駅や渋谷警察署宇田川派出所、下鴨の家など、公共施設から個人邸、集合住宅まで幅広く手がけ、グッドデザイン賞、エコビルド賞など数々の賞を受賞している。科学、原子構造、哲学、形而上学などにも造詣が深い。

フルブライト奨学金でハーバード大学大学院を卒業後、バックミンスター・フラウ氏や丹下健三氏のもとで学んだ後、独立して40年。現在も作品を生み出し続ける一方、スポーツと物理学が大好きで、好奇心は建築学上の構造に留まらず、「原子構造」を独自の発想でモデル化し国際学会誌に投稿した論文が掲載され、本業と並んで物理学がライフワークになっているという鈴木エドワードさん。早速お話を伺ってみましょう。

建築家の原点は「想像ごっこ!?!」

建築家になられたきっかけはどんなことでしたか。

僕は終戦直後、埼玉県狭山市稲荷山公園というところで生まれ育ち、姉2人いますが当時そんな環境のなかで我々の顔立ちが珍しく、いじめに遭うこともあり、外で喧嘩しているか、林の中で一人想像ごっこしてるか、家でひたすら絵を描いていました。

両親が外車のディーラーを営んでおり、近くにある米軍基地からの中古のアメリカ車を埼玉から都内に届けるのが母の役目でした。いつも僕は車の助手席に座らされ、代官山や青山の街並み、リッチな家々を眺め、すてきななあと思っていました。

同じ頃、アブラハム・リンカーンの漫画小説を読み、大きくなったらアメリカ大統領になりたいと思って住む家（ホワイトハウス）を設計したりしていました。

その後、大学に進む際には「絵を専攻しても食べていくのが難しい」と思い、美術に近いフィールドとして建築関係の勉強を試してみたら楽しかったというわけです。

学校はインターナショナル・スクールだったのでしょうか。



現在のセントメリーズ・インターナショナル・スクール
校舎棟（2009 鈴木エドワード建築設計事務所作品）



8歳のときのドローイング

日本の小学校は3年の1学期まで行っていました。その頃、両親は姉たちのためにインターナショナル・スクールを探していたのですがなかなか見つからず、たまたま間違えて母が男子校を訪ねてしまい、そのとき僕と一緒にいたこともあってセント・メリーズ・インターナショナル・スクールに行くことになったんです。日本の学校ではいじめに遭ったりしましたが、セント・メリーズはありとあらゆる国の子がいて、みな平等でそこは天国でした。

8歳で入り18歳で卒業の時、当時面接に立ち会った校長先生が、入学当時の裏話「本当は入学を断ったんだよ」と教えてくれました。

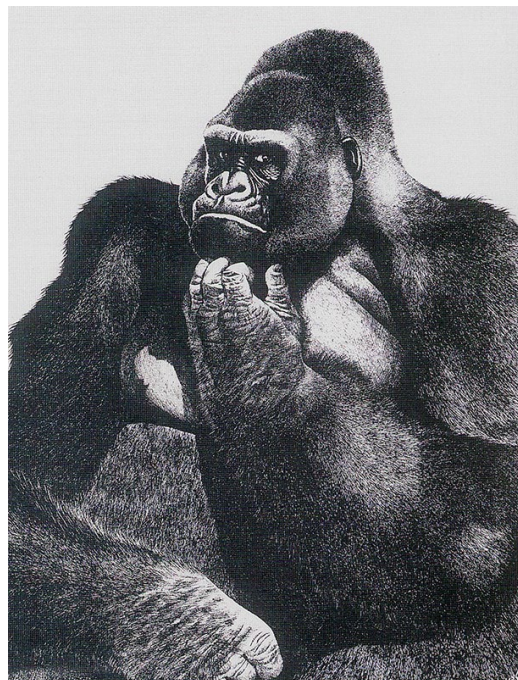
インターフェースで心地よさを追求

建築家として 29 歳で独立されたのですね。

ハーバード大学大学院を卒業後、丹下健三都市建築設計事務所で働いていましたが 13 ヶ月しかいなかったんです。丹下先生の仕事は世界規模での大きな建築の基本構想やプレゼンテーションが多く、僕は実施設計の勉強があまりできませんでした。そこで、他の事務所に行くか、独立して自分で勉強していくか考えた末に、独立することを決意したんです。

最初は友人と二人で小さな事務所を借りて、資金も 30 万円くらいしかありませんでした。当時はエドワード鈴木と名乗っていたので、電話口で毎回のように「江戸川の鈴木さん？」なんて間違えられたりして…。

独立して初めて手がけた仕事は、母校であるセント・メリーズ・インターナショナル・スクールの同級生の山中湖の別荘です。それがメディアに取り上げられ、その後も運良く口コミで仕事が次から次へと広がっていきました。



1977 ロダンの“考える人”を基に、木村しゅうじ氏が描いたゴリラのイメージと共に歩みだした鈴木エドワード建築設計事務所

「JR さいたま新都心駅」では、「通産省グッドデザイン賞」をはじめ数々の賞を受賞していますが、私たちにもなじみのある場所ですね。

テレビ番組のトークショーのホストを 1 年やっていたときの縁で、山形新幹線の赤湯駅、次に秋田新幹線の大曲駅、そしてさいたま新都心駅の駅舎ということになりました。

当時、さいたま新都心は高層ビルが 2～3 本建ち、いずれいろんな建築が並ぶだろうと…。



JR 東日本 さいたま新都心駅

この駅舎で狙ったことは形がなかったようなもの、雲や空気のように人を包み込み、暖かさや心地よさをもたらすシェルターでありたいと考え、全体的に雲のように柔らかく流れる形態とし、造形的な存在感を主張しないようにしました。

自由通路には、「約 80m の通路に柱を 1 本も立てず、さらに 23m の幅員を確保」という条件があったので、楕円形断面が最も効率がいいと判断し、大きなチューブ型でゆとりある歩行空間を創出しました。屋根は省エネを考慮して全体の約 1/3 を透明ガラス、残りは断熱材を間に入れた折板を採用して低コスト化を図り、流れるようなラインで一体化した駅舎と自由通路に十分な自然光を取り入れることができ、時間の経過とともに変化する光と影の表情が楽しめる通路となりました。

さいたま新都心駅は、駅としてのハード機能のみならず、人の心にやさしさを発信できる駅であることを目指しました。

卒業設計の「空飛ぶ家」から生まれたプレハブ住宅『EDDI'S HOUSE』とは…



EDDI'S HOUSE

僕の大学の卒業設計が「空飛ぶ家」だったんですね。三角を基本にした建築のシステムで、三角形の座布団みたいなクッションの周りをジッパーで繋げて空気を入れて膨らまし、ドームにするというシステムです。そしてその三角のモジュールに空気かわりにヘリウムを入れたら浮力がついて飛ぶんじやないかと考えたわけです。そんな夢から実現したのが『EDDI'S HOUSE』です。

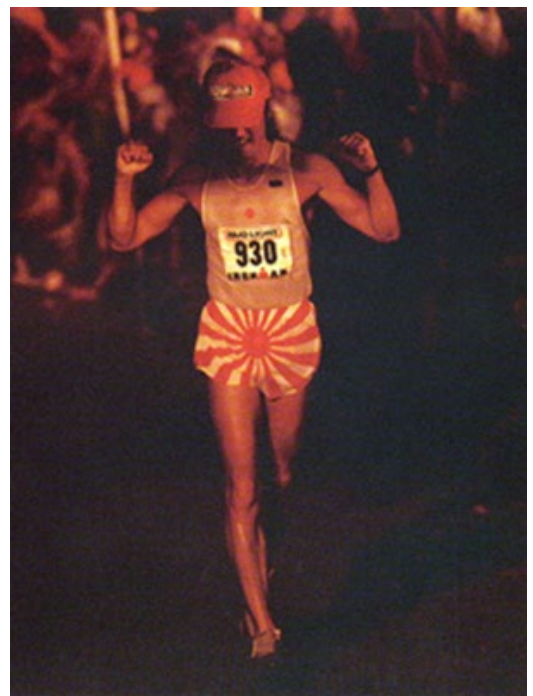
『EDDI'S HOUSE』は、うちが20～30年掲げているテーマであるインターフェースを基に開発したプレハブ住宅。知る人ぞ知る住宅で、結構人気があったんです。

トライアスロンやスポーツのことを少しお話いただけますか。

小さい頃から体を動かすのが大好きで、38歳のときトライアスロンを始めました。

当時一緒に仕事をしていたインテリアデザイナーの内田繁さんにハワイのトライアスロン・レースの様子を撮影した写真を見せてもらい、スポーツ大好き、ハワイ大好き、海大好き、空大好き、お祭り大好き人間の僕は「これはやるしかない！」と。決断したものの…一度は諦めたんですが、あるパーティーで知人が僕の体を触って「長距離向いているんじゃない？僕がトレーナーになるからトライアスロンやってみない？」なんておだてるので調子に乗って、「お酒はやめない、トレーニングも半年しかやらない」という条件をつけてチャレンジすることにしました。

初めて参加したハワイのアイアンマンレースで、自転車で坂道を下っている途中、一人きりになった瞬間があったんです。頭上には青い空が広がり、右手には美しい海がキラキラ輝いていて、思わず「神様ありがとうございます！」と感謝するほど幸せを感じました。



ハワイ・アイアンマンレースで



バスケットボールは高校時代から大学卒業してもずっとやっていたんですが、徐々に仲間が減り、一時空白がありました。10年くらいして再開。そのうち上手な人が加わるようになり、そのチームを「冗談's」と名づけ、いまだに続いています。

バスケットボールは毎週日曜日に、ほかに週2～3回はプール、週3回は筋トレを欠かさずにやっています。

自称「生命研究家」

物理や科学がライフワークとなっているということですが…

現在、世界中の科学者は科学の「幸せの青い鳥」を探しています。宇宙の4つの力である「電磁波」、原子内の「強い力」と「弱い力」、そして「重力」を統一しようとしているのです。

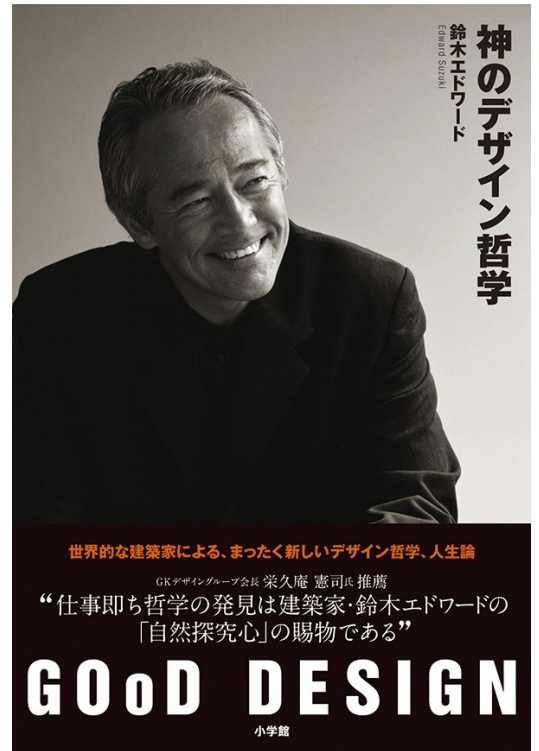
この統一を図った人はノーベル賞受賞間違いありません。科学者に笑われてしまうでしょうが、最近、僕はこの謎を解きました。その答えは「愛」です。科学や物理を学ぶと、愛がすべてを結びあうことに気がつきます。

宇宙の“始まり”には「物」はなにもなく、「無」しかなかったのです。この「無」から何らかの「意識」、「意思」が働きビッグバンが起き、この物質宇宙が生まれたと最先端科学は主張します。もしこれが事実だとしたら、この物質宇宙を生んだ「意識」「意思」は好意的だったのか、または悪意的だったのか？好意的としか思えません。なぜならば宇宙すべてが僕にとって好意的に見えるからです。

以前、交通事故で首、肩をひどく痛めたことがありました。総合病院、クリニック、カイロプラクティック、鍼治療等々トライしましたが、残念ながら治る方向には進みませんでした。そんな中、東洋医学の比較的若い先生が、ほとんど希望を失っている僕に「鈴木さん、この宇宙には2つの力が働いています。生命力と回復力。言うまでもなく生命は奇跡です。そしてこの生命力に異変が生じたときにもう一つの奇跡、回復力が働き生命を維持します。ですから、大丈夫です。鈴木さんは絶対に治ります！」とってくれたのです。私は先生を信じ、おかげさまで完治しました。



Photo : The Last Whole Earth Catalog



人間の最大の敵と知られている「癌」の最良の「薬」は何だと思いますか？「大いに笑い、人生を楽しみ、前向きに生きること」です。

僕は8年ほど前に癌と診断されました。癌や重い病を克服した人たちは「幸せなことだけを思い、たくさん笑い、楽しく過ごすことが最良の薬だ」と一様に言います。私自身もそういう生き方をしながらおかげさまでずっと元気に過ごしています。

ポジティブに生きることがポジティブな結果を生むのです。精神環境(マインド)はDNA(物質)を変える力を持っているのです。

科学は「自然の仕組み」の追求です。僕はこの「自然の仕組み」を「神の建築」または「GOOD DESIGN」とも呼んでいます。この宇宙は「愛の進化」そのものなのです。